

# 銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月9日(金)

▼「狩」誌へ若井新一さんの第四句集『雪形』の評論。「伊那路」へ井月忌の集いの報告文を大野田好記さんと共著。地方新聞用、食物についてのコラム一回四百字で十回分。などなど書きまくる。午前中、美容師の中川さん来て家族のカットなど。私は桃子の指示で眉毛のセツト。店、遠藤若狭男さん古本屋の帰路とて数年ぶりにお目に懸る。「塔の会」の同期入会の方。「草樹」環さん他五人が吟行あと発行所にて句会、あと店。池田のりをさん、慶大時代の友人安藤さん(伊那北高の先輩)、福井さんと。佐古田亮介さん(神田古書連盟会長)に頼んでおいた石川淳の『諸国崎人伝』届けてくれる。やや痛んでいるので代金不要と。

▼十時、運営委員会。十三時より「銀漢本部句会」五十五人。句は不調! あと「庄屋」にて親睦会。

▼快晴。朝から原稿書きなど。家の裏の畑で所ジョーじさんが野菜の苗に水を撒いている。「銀漢」七月号の校正。「平成俳壇」選句、一日遅れながら発送。夜、家族で夕食。「俳壇」七月号用グラビア「私の自由時間」用の料理している写真を宮澤に撮ってもらう。

▼発行所「かさ、ぎ俳句勉強会」。前田普羅と。あと十人店。「や」の麻里伊、中村十郎さん、久々。

▼「火の会」六人。閑散。発行所最終校正。

12日(月)

13日(火)

11日(日)

10日(土)

21日(水)

22日(木)

23日(金)

24日(土)

25日(日)

26日(月)

▼「三水会」五人。西村和子さん、角川・青木氏他と。発行所「はてな句会」あと五人。皆川文弘さん、福島民報の記事(いわき吟行の件)持参してくれる。「爽樹」環さん。

▼オリックス時代の神村君三人。遅い時間に權未知子さん。菊田一平さんの句会あと八人ほど。

▼発行所「門」句会。鳥居真里子さん他。真砂年さんずつと。武田編集長他、六月号の発送。愛媛の野菜など沢山いただく。「金星句会」あと七人。「天為句会」あと五名ほど。ニューヨークから帰国中の月野はなさん。

▼午前中、成城幼稚園運動会。家族で。宮沢りえさんと一緒。午後「纏句会」。月野はなさんをゲストに十六人。あと題の初鰐、鮎の風干し、加茂茄子の田楽。握り。終ってばなさん他と松代展枝さんの家。ばな歓迎会。二十名程に。

▼選句、うたた寝。武田さんから戴いた蕨を茹でる。午後、浜松へ。オークラアクトシティホテル浜松にて「白魚火」(仁尾正文主宰)の通巻七百号記念晩餐会。仁尾主宰、有馬朗人先生などと同じメインテーブルで恐縮する。同席の片山由美子、伊東肇、西嶋あさ子氏とも久々。旭川から来たという坂本タカ女さんが「銀漢」のホームページを欠かさず見ていると。同じく伊那西箕輪出身の小林さつきさんも声を掛けて下さる。帰路の新幹線、豊橋のちくわ、ビールで。

▼柚口満さん今年も青山椒持って来てくださる。店、「月野はな歓迎会」。超結社で二十六人。三句出

14日(水)

15日(木)

17日(土)

18日(日)

19日(月)

27日(火)

30日(金)

31日(土)

6月1日(日)

2日(月)

3日(火)

▼「アルバカの会」阪西敦子他、女性俳人の会に男も参加。三十五名。「バ」で始まる句。「祭」「四脚のもの」の題で三句。清人さん気仙沼の牡蠣を蒸す。焼そばと活躍。学生時代の先輩、梶田さん夫妻も来るが貸し切り状態で入ることできず。

▼「銀漢句会」あと二十人。真砂年、のりをさん……。

▼鍛冶橋駐車場より、スパリゾートハワイアンズ行バス、九時五十分発。快晴。十二時過ぎ着。昼食をとり、十四時、貸し切りバスで勿来関へ。総勢四十三人。古市文子、吉田初江さんが待っていてくれており、いわきの銘菓、「ふくみや」の「道明寺」の桜餅、酒代の差し入れなどいただく。福島民報社勿来支局長・浜津真也氏の取材を受ける。十六時まで吟行し、いわきの津波の被災地を廻ってホテルへ。四句出し句会のあと宴会。皆川丈人さん、皆川文弘さん同行の旅。文弘さんがずっとガイドをしてくださる。あと、部屋にて酒盛りをしながら席題句会。

▼強烈な二日酔い。ああつ、事もあるうに盤水先生の古里でやってしまった!朝食にも行けず髭も剃れず……。関伽井嶽常福寺、白水阿弥陀堂と句碑を巡る。スパリゾートに戻って昼食。十四時四十分のバスにて東京へ。車中、眠りこける。東京駅黒塀横町の店にて文弘さんを囲み十七人で打ち上げ。

▼家の前の道にて以前、高井戸の家の清掃をお願いしていた中根さんとはったり会う。店、「演劇人句会」七人。

し句会と親睦会で賑わう。大阪から出張で来ていた凌雲君も参加。

▼「萩句会」選句へ。店、閑散。但し、谷岡、眞理子、硯児、直、宗一郎さんなど来て楽しく。閉店前、森岡正作。佐怒賀直美さんが来て二十三時。

▼麒麟夫妻、坪井さん、洋さん。悦子さん発行所のパソコンの設定に。月末のせいか宴会流れの一般客が何組か。

▼久々、一日家に居る日。「銀漢」七月号の選。選評など仕上げる。宮澤と莉子はゴルフコースへ。戻って宮澤は伊勢の撮影へ。桃子と鮎八本焼いて酒盛り。子供達も鮎好きで奪い合い。

▼今日も一日家。疲れが溜まっていたか、書いたり、寝たり、テレビを見たり。「春耕同人句会」は休む。外は猛暑の様子。宮澤は今日も伊勢にて、夕食は中華料理の出前を頼む。少々の紹興酒とビールに酔って二十時には就寝。

▼元氣回復。午前中、執筆など。今日も真夏日。松川洋酔さん七十一歳誕生日とて、弟子中心に十六名。発行所「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十人。尾崎放哉と。「海も暮れきる」(NHK)の再上映の折、吉村昭氏とお会いしたことなど思い出す。

▼有澤志峯さん武蔵美の同級生六名。何十年ぶりの再会者もあると。群馬から出張の鈴木踏青子さん寄ってくる。